

あいの

創刊号

目次：

院長ご挨拶

副院長ご挨拶

夏祭りの模様

ダイバーショナルセラピーについて

診療案内

当院までのアクセス



※上記写真はセラピーの一環である園芸療法で患者さん達が作ったはつか大根です

藍野病院広報誌創刊にあたって

院長 佐藤 茂秋

医療法人恒昭会藍野病院の広報誌創刊号をお届けします。当院は医療機関、福祉施設、教育研究施設を含む藍野グループのメンバーの一つであり、これ迄も藍野グループ全体の広報誌は発刊されておりました。しかし藍野病院は本誌にも紹介されております様に、他の一般病院とは異なった特徴を備えております。それ故当院独自の広報誌を作り、周囲の関連の方々によく知っていただくのがよかろうという意見が出て、今回創刊号発刊の運びとなりました。

院長の挨拶



院長 佐藤茂秋

藍野病院は昭和40年に精神科病院として設立されました。以来、特殊疾患病棟、療養病棟等を加えながらも精神科を中心に、特に身体的合併症を持つ精神疾患の患者さんの診療にあたっております。この為に病棟、外来も整備して、身体的疾患のみの患者さんも受け入れられる様になっております。更に人工透析室では入院、外来両方の患者さんの透析を行っています。整形外科領域や脳血管障害等のリハビリテーションも積極的に行っております。近年人口の高齢化に伴って、癌や血管系疾患、糖尿病等が増加しており、これらの疾患にも対応出来る様になっておりますが、精神、神経科領域では認知症の増加を見逃すことは出来ません。当院では、この認知症の早期発見から病状進行の抑制、終末期医療までの総括的取り組みも一つの大きな課題としております。文字通り心身の総合的診療を目指し、

“病める人を医やすばかりでなく慰めるために”

を理念としている病院です。種々の御相談には、地域医療連携室がいつでも応じますので御気軽に御利用ください。



副院長 濱畑哲造
外科医

藍野病院は昭和40年に精神科病院として設立されました。精神科患者が身体的合併症（例えば胃癌など）に罹ったときに、なかなか、他病院に受け入れてもらえず、昭和55年6月に手術室が開設され、自前で精神科患者の手術が出来るようになりました。現在は精神疾患をもつ患者さんのみならず、一般の患者さんも広く受け入れ、各科合わせて年間約300例の手術を行っています。

手術は外来で出来る小手術から、食道 胃 大腸 小腸 直腸 肛門に至る消化器全般、肝臓 胆嚢 膵臓などの胆道系も含め腹部内蔵に関するものは、ほとんど可能です。また甲状腺 乳腺（乳房温存術） 各種ヘルニア 肺癌や気胸などの肺疾患 縦隔腫瘍 心臓ペースメーカーの手術も出来ます。泌尿器科、婦人科も手術を行っており、心臓と小児外科以外の手術はほぼ対応できます。血管造影が出来ますので、肝癌を初めとする肝腫瘍の治療、TAE 肝動脈動注用リザーバー埋め込み術、抗癌剤注入する静脈リザーバー埋め込み術もしています。

社会の高齢化に伴い、認知症等の疾患が増え嚥下障害に対し内視鏡的胃瘻造設術（PEG）も年間40例近く行っていますし、その管理のノウハウも持っています。認知症や精神疾患があり、他の施設で手術してもらえない症例がありましたら、是非紹介してください。各科の医師や看護師、コメディカルがチーム医療で対処致します。

夏祭り

藍野病院では、年に1度のイベントとしてお茶会と盆踊りを行っています。お茶会やお茶会は昔からの伝統行事であり、高齢者には昔から親しんでいることから認知症予防にも効果があるといわれています。お茶会では介護福祉士を中心に浴衣を着た学生がボランティアさんの指導の下、お茶を点て約500人の参加者が舌鼓を打っています。



盆踊りでは患者さんやその家族と病院スタッフがやぐらを中心に輪となり踊っています。足の不自由な患者さんでも、車椅子に乗りやぐらの下に行くと、手振りをつけ日頃では見せない笑顔で微笑んでくれます。準備も大変ですが、患者さん・職員・学生・ボランティアさん達が共に楽しんでいる姿を見ると今年も開催できてよかった、また来年もやろうと勇んでしまいます。



副院長 福田泰樹
呼吸器内科医

何でもござれ、と言えるだけの体制には至っておりませんが、大学病院からの非常勤医の先生方のご協力を得て、ほとんどすべての科の診療が行える体制にまで整備をして参りました。今後、さらに地域医療に貢献すべく体制を整えてゆきたいと考えております。先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昭和40年に精神神経科病院として開設されました当院は、その後、徐々に拡充され、今日では、認知症を含めた精神疾患患者さんの胃癌や腸閉塞などの身体的疾患が治療できる病院として、また逆に身体的疾患のために精神症状を併発され、一般の病院で治療が困難な患者さんの治療が行える病院として、大阪府下の精神神経科医療の重要な機能を担ってきました。このために藍野病院＝精神神経科という印象が大阪府の隅々まで行き渡っているように思いますが、実は当院が日本外科学会専門医制度関連施設、日本内科学会認定医制度教育関連施設であること、さらには日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本糖尿病学会、日本神経学会、日本東洋医学学会、日本泌尿器科学会などの施設認定を受けていることをご存知の先生は意外に少ないのではないかと感じております。これらの施設認定を受けるためには学会から認定されたしっかりとした専門医や指導医が常勤医として勤務していることが必要なのは当然ですが、病理解剖を始めとしてCPCの実施、学会発表などの実績を積み重ねての認定と言え、日頃の診療レベルが高いことの裏付けだと自負しております。さすがに総合病院のように救急も含めて



副院長 岸川雄介
精神科医
老年心身医療センター長

当病院は、認知症患者さんを受け入れることのできる病床が501あり、地域の認知症専門医療機関として働いております。認知症は、1) 全身疾患であり、2) 進行する脳機能の障害を抱えながら、3) 介護者とともに生きていくことである、という基本的な観点から、診断・治療・介護アドバイス・介護者のサポートを実施しています。全身疾患という考え方から、認知症患者さんを専門的に見てもらえる内科医とチームを組んでいます。その意味で「老年心身医療センター」という名前にしています。また、物忘れ外来を軸として、身体合併症が悪化した時、問題行動や精神症状が外来ではコントロールしきれなくなった時、介護者が疲れきって少しの休息を求めている時など、様々なセラピー（ダイバーショナルセラピー）を行い、身体管理とともに、可能な限り認知機能の悪化を防止しながら在宅や施設へ戻していくという入院治療に挑戦し、在宅ケアのバック・アップ、バック・ベッドとして機能して、地域を支えるということを目指しています。また、避けることのできない終末期を少しでも納得できる形で迎えることができるように、内科医、精神科医、看護師がチームを組んで治療に取り組んでいます。地域のケアスタッフ、かかりつけ医との連携をより深めていくためのシステム作りにも、大阪府医師会の研究助成金を得ながら早期に現実化すべく活動を続けています。「認知症の予防から最期まで、より良い生活を介護者と共に」をモットーにして、早期の診断精度をあげるための研究、様々な脳機能障害の症状との関連の解明、新薬治験への積極的参加、確定診断を行うための剖検体制の整備、そして緩和ケアへの試みなど、地域からのより強い信頼を得ていくための努力を、今後続けていく所存です。

ダイバーショナルセラピー NO.1

当院の認知症病棟では入院中の患者さんに様々なセラピー

ダイバーショナルセラピーを実施し、活動性や社会性を維持し脳機能の低下を防ぐ努力を行っています。

ダイバーショナルセラピーとはオーストラリアで始まった全人的ケアの考え方で、当院でドールセラピーや園芸療法を行っています。



園芸療法で患者さんが育てている野菜や花です



- Diversion = 気分転換、気晴らし、迂回路
- Therapy = 計画的・意図的に介入することで変化を生み出すこと

※次号はドールセラピーについて

診療科目

- 内科
- 脳神経外科
- 泌尿器科
- 精神科
- 小児科
- 病理診断科

- 外科
- 皮膚科
- 血液浄化センター
- 形成外科
- 婦人科
- 放射線科

- 整形外科
- 眼科
- 耳鼻咽喉科
- 歯科
- リハビリテーション科

施設基準

基本診療料の施設基準

- 一般病床(225床)
- ・一般病床15対1入院基本料・看護補助加算1 171床
- ・特殊疾患病床入院料1 54床
- 療養病床(144床)
- ・療養病床入院基本料 144床
- 精神病床(600床)
- ・精神病床15対1入院基本料・看護補助加算1 300床
- ・認知症病床入院料1 180床
- ・精神療養病床入院料 120床

計 969床

療養病床療養環境加算(2)
精神科身体合併症管理加算(精神科病棟、認知症病棟)
栄養管理実施加算診療録管理体制加算
重症者等療養環境特別加算褥瘡患者管理加算
特掲診療料の施設基準 薬剤管理指導料 入院時食事療養(Ⅰ) 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) 集団コミュニケーション療法料
検体検査管理加算(Ⅰ) 画像診断管理加算1
無菌製剤処理料 医療保護入院等診療料
コンタクトレンズ検査料Ⅰ 肺悪性腫瘍手術等
肝切除術等 水頭症手術等
開放型病院共同指導料 医療機器安全管理料1
単純CT撮影(マルチスライス型) 補綴物維持管理料
単純MRI撮影(1.5テスラ以上の機器による場合)
ペースメーカー移植術及び交換術
糖尿病合併症管理料
ニコチン依存症管理料

学会認定施設一覧

- 日本外科学会専門医制度関連施設
- 日本東洋医学会研修施設
- 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- 日本呼吸器内視鏡学会
- 専門医制度関連認定施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本神経学会専門医制度準教育施設
- 日本内科学会認定医制度教育関連病院

日本糖尿病学会認定教育施設

アクセス



バス時刻表

時間	平日				土曜日				休日								
	摂津富田駅前発	藍野病院前発	時間	摂津富田駅前発	藍野病院前発	時間	摂津富田駅前発	藍野病院前発	時間	摂津富田駅前発	藍野病院前発						
08	※午前7時35分より摂津富田駅⇄病院間を15分間隔で巡回しています								08	00	25						
09	05	20	35	50	00	16	31	46	09	05	20	35	50	00	16	31	46
10	05	20	35	50	01	16	31	46	10	05	20	35	50	01	16	31	46
11	00	20	45	01	31	46	11	00	20	45	01	31	46	11	00	20	45
12		20	50	01	31	46	12		20	50	01	31	46		40		30
13		20	50	01	31	46	13		15		01		46	13	25		16
14	05	20	35	50	01	16	31	46	14	00	30		15	46	14	25	
15	05	20	35	50	01	16	31	46	15	00	15	30	45	00	16	31	46
16	05	20	35	45	01	16	31	46	16	00	30		16	05			
17		30		00	15	31	46	17		30	05	15	46	17		30	
18	00	30		16	46	18	00		18	00		16		18			16
19	00	30		16	46	19			19	00		16		19		01	31
20	00			16		20			20					20			

お問い合わせ

総合受付

TEL: 072-627-7611 FAX: 072-627-3627
入院のご相談は「地域医療連携室」まで

初めての試みでもあり、編集委員会での原案の検討、原稿の依頼、構成など、当初考えてもいなかった数々の仕事が生じました。
今回このような形で藍野病院をご紹介させていただき、多少なりとも病院のことをわかっていただけたかと思えます。
この創刊号を読まれて皆さんはどのような感想を持たれたでしょうか？この広報誌を発刊するたびに本病院をご理解していただけるように編集・発行をしていきたいと思えます。

編集委員一同

編集後記